【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】令和7年3月6日(2025.3.6)

【公開番号】特開2024-19491(P2024-19491A)
【公開日】令和6年2月9日(2024.2.9)
【年通号数】公開公報(特許)2024-026
【出願番号】特願2023-208639(P2023-208639)
【国際特許分類】
*Ａ０１Ｎ 35/02(2006.01)*
*Ａ０１Ｐ 21/00(2006.01)*
*Ａ０１Ｎ 25/08(2006.01)*
*Ａ０１Ｇ 7/06(2006.01)*
【ＦＩ】
Ａ０１Ｎ 35/02
Ａ０１Ｐ 21/00
Ａ０１Ｎ 25/08
Ａ０１Ｇ 7/06 Ａ

【手続補正書】
【提出日】令和7年2月26日(2025.2.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
８０℃以上２００℃以下の沸点または昇華点を有する不飽和カルボニル化合物を１種以上含む有効成分が多孔質材料に担持された担持体を含む、植物の高温耐性誘導剤であって、
前記多孔質材料がシリカゲルであり、
前記多孔質材料の比表面積が２００～１，０００$m^2$／ｇである、
高温耐性誘導剤。
【請求項２】
前記シリカゲルの含有量が、前記多孔質材料の総質量に対し９５～１００質量％である、請求項１に記載の高温耐性誘導剤。
【請求項３】
前記化合物が式１で表される化合物である、請求項１に記載の高温耐性誘導剤。
$R^1$－ＣＨ＝ＣＨ－Ｃ（＝Ｏ）－$R^2$ ・・・式１
ただし、$R^1$は、水素原子、ヒドロキシ基または炭素数１～９のアルキル基であり、$R^2$は、水素原子または炭素数１～５のアルキル基である。
【請求項４】
前記化合物が式１で表される化合物である、請求項２に記載の高温耐性誘導剤。
$R^1$－ＣＨ＝ＣＨ－Ｃ（＝Ｏ）－$R^2$ ・・・式１
ただし、$R^1$は、水素原子、ヒドロキシ基または炭素数１～９のアルキル基であり、$R^2$は、水素原子または炭素数１～５のアルキル基である。
【請求項５】
前記化合物が２－ヘキセナール、２－ブテナール、２－ペンテナール、２－ヘプテナール、１－ペンテン－３－オン、３－ペンテン－２－オン、４－ヘキセン－３－オン、３－ヘプテン－２－オン及び２－オクテン－４－オンから選択される少なくとも一種である、請

求項１記載の高温耐性誘導剤。
【請求項６】
前記化合物が２－ヘキセナール、２－ブテナール、２－ペンテナール、２－ヘプテナール、１－ペンテン－３－オン、３－ペンテン－２－オン、４－ヘキセン－３－オン、３－ヘプテン－２－オン及び２－オクテン－４－オンから選択される少なくとも一種である、請求項２に記載の高温耐性誘導剤。
【請求項７】
前記化合物が２－ヘキセナール、２－ブテナール、２－ペンテナール、２－ヘプテナール、１－ペンテン－３－オン、３－ペンテン－２－オン、４－ヘキセン－３－オン、３－ヘプテン－２－オン及び２－オクテン－４－オンから選択される少なくとも一種である、請求項３に記載の高温耐性誘導剤。
【請求項８】
前記化合物が２－ヘキセナール又は３－ヘプテン－２－オンである、請求項１に記載の高温耐性誘導剤。
【請求項９】
前記化合物が２－ヘキセナール又は３－ヘプテン－２－オンである、請求項２に記載の高温耐性誘導剤。
【請求項１０】
前記有効成分の担持率が担持体の全量に対し０．０１～１，０００質量％である、請求項１～９のいずれか一項に記載の高温耐性誘導剤。
【請求項１１】
前記担持体が錠剤、細粒、フィルム及びブロックのいずれか一つの剤形に賦形されている、請求項１～９のいずれか一項に記載の高温耐性誘導剤。
【請求項１２】
前記有効成分の担持率が担持体の全量に対し０．０１～１，０００質量％であり、かつ、前記担持体が錠剤、細粒、フィルム及びブロックのいずれか一つの剤形に賦形されている、請求項１～９のいずれか一項に記載の高温耐性誘導剤。
【請求項１３】
請求項１～９のいずれか一項に記載の高温耐性誘導剤を植物に施用する、植物の高温耐性誘導方法。
【請求項１４】
請求項１～９のいずれか一項に記載の高温耐性誘導剤を植物に施用する、植物の高温耐性誘導方法であって、前記有効成分の担持率が担持体の全量に対し０．０１～１，０００質量％である、植物の高温耐性誘導方法。
【請求項１５】
請求項１～９のいずれか一項に記載の高温耐性誘導剤を植物に施用する、植物の高温耐性誘導方法であって、前記有効成分の担持率が担持体の全量に対し０．０１～１，０００質量％であり、かつ、前記担持体が錠剤、細粒、フィルム及びブロックのいずれか一つの剤形に賦形されている、植物の高温耐性誘導方法。